

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.13
2014 January

発行者 琉球病院事務部長
藤田 博文



院長

村上優 (むらかみ・まさる)

1949年生まれ、

74年九州大学医学部卒業。

86年国立肥前療養所精神科医長。2002年国立肥前療養所臨床研究部長、

同年King's College London Institute of Psychiatry (司法精神医学研究所) 長期研修。

2005年花巻病院臨床研究部長 (併任) を経て、2006年琉球病院長に就任。

日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事、NGOベジャワール会の副会長として活躍。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

新春お慶び申し上げます

院長 村上 優

明けましておめでとうございます。

今年は5年ぶりに精神保健福祉法が改正され4月より施行されます。保護者制度廃止など抜本的な改正になるはずが、竜頭蛇尾のように中途半端なものになり、混乱も予想されますが、我が国も精神科医療が大きく変わる時期の混乱として良い方向に収束されればと願っております。

なかでも厚生労働大臣の諮問を受けて「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針案」が作成され、今後、進むべき医療が示されました。「精神障害者が、精神疾患を発症し、通院や入院、退院後等に、本人の状態や状況が変化する中で、再発を予防しながら地域社会の一員として安心して生活していく権利の享有を確保していく」と冒頭にあるように、これからは早期発見介入、重度の方も治療を総動員して在宅に方向づけられた医療の提供を心掛けなければなりません。

琉球病院では早くより社会復帰促進が可能になるよう環境調整を進めてきました。例えば薬物療法も可能な範囲で単剤化をめざし、統合失調症の64%が抗精神病薬の単剤になりました。治療抵抗性で治療の難しいかたもクロザピンを導入することで単剤化でも十分安定した状態が得られようになりました。また包括的地域精神科支援を目指して多職種による訪問チームと地域支援機関との連携を進めてきました。これはアルコール依存や認知症、児童思春期医療に広がり、多職種チーム医療が琉球病院の医療理念の基本となっています。

今年は琉球病院でも病棟の大幅な建て替え工事が始まることを祈っています。すでに設計が終わり、しっかり新しい病棟のイメージができていますが、昨年来より様々な事情で建設業者が落ちしないという事態に遭遇しています。新しい時代に沿うように新しい治療環境を整えてまいります。

最後に平成26年5月16、17日に第10回司法精神医学会を沖縄で開催いたします。ご案内は当院か学会HPをご覧ください。詳細を逐次案内してまいります。多数ご参集いただければ幸いです。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
- ・ユニット 4床
- ・重症心身
- ・障がい 80床
- ・医療観察法 37床



●アクセス

路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス
「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車/ 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
- 進捗状況

本体工事：請負業者 電気設備・・・(株)九電工機械設備
機械設備・・・(株)三建設備工業
建築工事・・・平成26年3月入札予定

教育・研修

- ファンクションMRI勉強会 平成26年1月8日(水)
肥前精神医療センター 臨床研究部長 上野 雄文 先生 院内対象
- ミニコンサート 平成26年2月13日(木)
14:00~15:00 作業療法棟(あしびなあ〜) 院内及び院外対象

●地域医療連携室だより

・活動状況 当院では長期入院の患者様の退院促進に取り組んでいます。院内多職種チーム及び地域の支援者、家族と連携し、本人の望む生活ができるように支援を行っています。また、当院外来、入院では一般精神科のほか、アルコール等の依存症治療全般、児童思春期、認知症など多岐にわたる診療が可能です。診療については、予約にて対応させていただきます。お困りのことがあれば、お気軽に地域医療連携室へご相談ください。



空床状況

精神科病棟 15床	認知症 2床	アルコール 10床	児童思春期ユニット 2床
--------------	-----------	--------------	-----------------

12月25日現在

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症に対して、平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は102例となりました。平成25年11月の新規導入は5例であり、重度の精神症状にも効果的で退院数も30例を越えています。クロザピン専門外来も週に2回行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成25年11月の治療実績は6例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

当院では地域の関連機関と連携し、外来及び入院を通して発達障がい・情緒障がいを有する子ども・ご家族への専門医療の提供を行っています。

初診は1時間～2時間程度かかり、2～3回の受診後、診断・報告となります。入院治療は他機関からの紹介も受け付けております。

外来・入院治療ともにこども心療科の受診は予約制になっております。

外来紹介のパンフレットもございますので、地域連携室へお問い合わせください。



認知症医療

12月に入り、だいぶ冷え込みの厳しい時期となりました。当病棟の患者様は平均年齢73歳と高齢のため、日頃の保温や口腔ケアなどに注意シケアを行っております。

今月19日に「クリスマス会」を行いました。サンタクロースに扮したスタッフが、患者様ひとり一人へクリスマスプレゼントを配り、歌や踊りで楽しみました。

来年も季節感を取り入れたレクリエーションを作業療法の一環として、楽しく取り入れて行きたいと思っております。



重症心身障がい児医療

現在重症心身障がい病棟では、不穏状態に陥りやすい利用者を対象に細かな行動観察を行っています。どんな場面で、どんな時間帯に、どんな様子で不穏になるのか等を一定期間観察し続け、不穏状態に陥る際の特徴を理解するように努めます。この行動分析を基に、不穏状態に移行しないための職員の関わり方、環境の整え方を病棟全体で検討し、より良い医療・看護・支援の提供に繋げていきたいと考えています。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では11月現在、外来通院の患者様35名、入院中の患者様13名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入をすすめています。断酒が困難な方は、ぜひ外来に受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

第5回ACT(包括型地域生活支援プログラム)全国研修浜松大会へ参加してきました。今年は、静岡県浜松での研修会です。ACTチーム設置数が全国で増えてきたこと、厚生労働省から委託を受けアウトリーチ推進事業の3年間の取り組み状況や課題について発表がありました。当院は、ACTでの訪問看護は実施していませんが、R-ACTチームを結成(多職種チーム)し、ACTの理念である、障がいがあっても地域で本人らしい、生き生きとした生活ができることを目標にチームアプローチ、生活の場でのサービス提供を少数のケースで行なっています。ACT本来の姿ではないのですが、地方(田舎型)で地域の関係機関と連携しながらネットワークを作り、包括的なサービスが提供できる体制作りを目指しています。一般の精神科訪問看護についても5チームで実施し、R-ACTチームと訪問看護チームと連携を取りながら日々県内の中・北部を中心に活動しています。

臨床研究部活動状況 - 臨床心理学研究室より -

【医療観察法病棟5年間の治療プログラムの振り返り】

平成24年に医療観察法病棟から退院した対象者22名に対し、入院中に取り組んだ治療プログラムについて、アンケートによる追跡調査を行った。その結果、入院中のプログラムが退院後に役立ったと回答した対象者は78%であった。また、再び事件を起こさないために気をつけていることについて、「薬をきちんと飲む」が85%と最も高く、服薬の必要性、重要性を認識している対象者が多かった。一方、クライシスプラン(緊急時の対応)については、クライシスプランそのものの意味・名称をわからない対象者やプランを失くしてしまった対象者がいた。対象者自身がクライシスプランの意義を理解し、関係機関が活用できるようなプランの作成が課題としてあげられた。

入院中プログラムは、退院後の生活において役に立ちましたか？

とても役に立った :64.3%
 少し役に立った :14.3%
 役に立たなかった :14.3%
 無回答 :7.1%

再び事件を起こさないために、気をつけていることはなんですか？(複数回答可)

薬をきちんと飲む :85.7%
 ストレスをためない :71.4%
 外来受診する :71.4%
 睡眠をとる :71.4%
 生活リズムを崩さない :50%
 相談する :42.8%
 デイケアに通う :35.7%